

# くらし

## 認知症の オンリーワンケア

安原耕一郎 ②

その人にとってオンリーワンの認知症ケアを見つけよう。そのために最も適した方法は何だろう。「オンリーワンケア」は、その人の「心理的ニーズ」を探すことから始まる。

軽度の認知症がある90代のAさんは、3年前からデイケアに通っていた。最近失禁が多くなり、服や布団が汚れてしまうようになった。70代のお嫁さんが「着替えましょう」「お風呂に入りましょう」と声を掛けても「汚れてない」と拒否する。

途方に暮れたお嫁さんは、デイケアの職員に「何とかしてほしい」と訴えた。職員はAさんをショートステイで預かる提案をした。

Aさんは施設でも失禁と介護拒否を続けた。以前はデイケアで大好きだった折り紙や散歩にも無関心になり、一日中ベッドで過ごしていた。そこで職員は、Aさん自身に人生を振り返ってもらう「ライフレビュー」を試みた。

Aさんは、青春時代に織物工場と同僚と仲良く働いたことを話した。「みんなと護国神

イラスト・中本ちずる



## 楽しい思い出 不安軽減

### 心のニーズ探す

社へ折り鶴の奉納に行った」と、ジェスチャーを交えて笑顔で語った。何度も語った。すると突然Aさんは「鶴を折るので、折り紙をください」と申し出た。このライフレビューの後からAさんは鶴を折り始めた。2週間で失禁は消失。リハビリも積極的に参加し始めたのでトイレも自立。介護拒否もなくなった。そうして自宅介護が可能になった。

このケースのキーワードは折り紙だ。Aさんはライフレビューで、楽しかった護国神社に折り鶴を奉納した思い出を回想し、次第に気持ちが安定していった。

過去の折り鶴に対するプラスの印象が、その後に取り組んだ折り紙と重なり合っただけで、Aさんの心の底にある心理的不安やイライラを和らげることにつながり、失禁や介護拒否がなくなったようだ。折り紙が、Aさんにとってのオンリーワンケアだったと言えるだろう。(日本認知症グループホーム協会理事 福山市)